
戦争めぐる1人の勇者

さかな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦争めぐる1人の勇者

【Nコード】

N5840K

【作者名】

さかな

【あらすじ】

20xx年。長く続いた戦争があった。終わりなき戦争。

国と国との戦い。負けた国は滅びる・・・。

そして、勇者は、滅んだ国に用はなく、どこかにさまよっていた。

その中で、数々乗り越えてきた1人の勇者がいる。

その名は「音楽 未来の絆先生」。別名、「龍斬り」。

さまよう1人の勇者 音楽。

ここはどこだ……。
どこにいるんだ……。
寒い……。冷たい……。ここはいつたい……。
この地で死ぬんだろう……。
もう、起きられない。無理だ……。
意識が朦朧している……。
ああ……。ぼくは死ぬんだな……。

「……。きて……。」
？

「……。起きて……。」
誰だ……。？

「ひどい傷……。早く運ばないと。」

そして、意識がなくなって、1時間。

「誰ですか？この人は。」

「いえ、ひどい傷だったんで……。」

「それに、なんだこれは？何の剣だ？知らない剣だな……。」

俺は目を覚ました。とてもにぎやかに聞こえてくる。

そして分からないが、どこかで話し声をしている。

巫女みたいな人と、黒メガネと黒ジャンパーを着ていた人と、とても立派な白い服みたいな人がいた。

「あつ。目が覚めた？まだ起きちゃダメよ。安静にしとかないと。」

「よう。目が覚めた？俺はオーディンというんだ。よろしくな！」

そしてもう一人、白い服姿の人が静々とここに来た。

「私の名前はプラチナ。この国の王なんです。いえ、女王ですね。」

しかしあなたは一体……。どこから来たんですか？
と、分かりやすく言ってくれた。

「僕は音楽。みんなからは龍斬りって名乗ってるらしいけど……」
「龍斬り？」

3人は一斉に大声で叫んだ。そんなに驚くほどののかな？

「龍斬りって、あの伝説の龍を倒した人ってこの人？」

「ええ。あなたは前、どこの国にいたの？」

俺は

「P国ですが……。」

「p国!!」

また一斉に。耳が痛くなるくらいの叫び声だ。

「やはり、本物……。まさに重要な人材……。」

「女王様！これはチャンスですよ！」

俺は

「ん？そっぴやここはどこですか？」

「えっ？えっと……。ここはE国よ」

「E国……。か。どこかで聞いたことが……。なんか……。僕を
勧誘させるつもり？」

「願わくばお願いします……。」

3人はとても真剣そうだった。重要な人材……。

「いいですよ。この国に尽くしていただきましょう。」

3人はとても喜んだ。そのとき。

「わあ！」

何かガラスが割ったみたいな音がした。

「またあの子ね」

と聞いた。

「あの……。すいませんです」

泣きべそ見たいな子。とてもかわいい女子みたいだ。

「まったくこの子は……。足を引く張るんじゃないの！」

女王はかわいい女子の頭をたたいた。

僕は「待つてください。そんなか弱い子をたたいたら

バチがあたりますよ。ただ、落としただけで……。」

「……。まあ、あなたがそういうならゆるしてあげましょう。」

「うう。ありがとうございます……。」

この子は何度もお辞儀しながら言った。

「この子はさくらんぼ。この人は巫女。そしてこの人が
オーディン。まあ、よろしく頼むね」

と、とっさにここを後にした。

第2話 漆黒の勇者 ・ x ・ 桔梗（前書き）

もう死ぬ果てになる直前に助けた巫女。

そして、ついたところは、なんと国！。

名前は「E・G・O国」そして、僕はここに滞在することになった。

第2話 漆黒の勇者 ・ x ・ 桔梗

起き上がったとき、もう体が動けるようになった。
まるで奇跡的に起こったみたいに。

そのとき

「よう、音楽、目が覚めたか？」

「あなたは……。さん！」

とてもりりしい顔で、強そうな肉体。まさしく本物……。

「久しぶりだね。音楽。」

「あなたこそ、って何故ここに？」

「一応暇だったんでね。ここに滞在することになった。」
と、その横から

「あなたが音楽さん？この目でみるのはすごいことだね」
盾と矛を持って現れたのは……。

「こいつは桔梗っていうんだ。初対面だから挨拶しておけ」
といわれたので、ぼくも挨拶した。

「よろしく。ここはE・G・O国ってことは知ってるよね。ここは
面白い国なだけだね。」

僕はすごく笑った。本当に面白い国なんだ。
すると

「やあ、龍斬りさん。初対面だね。」

とてもいい男声で、りりしい顔をするのは……。

「xさん。なんでここに？」

「いやあ、龍斬りってどんなのか顔を見に来たんだよ。」
そんなに僕のこと知ってるのかと僕は思った。すると

「と、話題切り替えて、お前に話したいことがあるんだ。」
ぼくは の顔を見上げた。

「俺の部員になってくれるか？」

「えっ？」

「一応、君部隊入ってないようだね。一応入っちゃいなよ。」
と、桔梗が言った。

「部隊に入ると、いいこともあるしさ。」
と×が言った。

「別にかまわないよ。どうせ暇だしね。」

よし、あとで、部員表に新しくお前を書くからな。」
と が言った。

「やあ、起きたようだね。音楽さん。」

この声は一体……。

「ん？あなたは……。」

かわいい黒リボンをつけた男の人……。一体……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5840k/>

戦争めぐる1人の勇者

2010年10月15日23時44分発行